

# くるみ

THINK&TALK  
日本の未来を考える



平成31年

新春



## ごあいさつ

新春を寿ぎ、謹んで皇室の弥栄と国家の隆昌、氏子崇敬者の皆様の安寧をお祈り申し上げます。

昨年発生しました西日本豪雨、記録的な大型台風、北海道胆振東部地震に被災されました方々には心からお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り致します。

さて、本年二月に天皇陛下御在位三十年の記念式典が開催されます。平成は昭和、明治、応永（室町時代）に次いで四番目に長い元号となります。これまで常に国民に寄り添われて、喜びや悲しみを国民と共に分かち合われてこられました陛下ですが、ご高齢にともない「象徴としてのお務め」が果たせなくなるのではないかという「おことは」が重く受け止められ、四月三十日に江戸時代の光格天皇以来約二百年ぶりとなる御譲位となり、五月一日に皇太子殿下が新天皇として御即位し、新しい元号の下で私たちの暮らしが始まっていくことになりました。

元号の使用は、皇極天皇から譲位を受けた孝徳天皇の御代の大化に始まります。大化は程なくして、めでたいことが起こるきざしとされていた白い雉が献上されたことにより白雉と改元されました。当社は白雉二年（六五二年）の創建ですから元号とほぼ同じ長さの歴史を有しています。日本三大稲荷の一つに数えられる当社の起りが吉兆とされた白雉時代で、笠間の地でお祀りを始めた人々は、同じ祥瑞として福をもたらすとされていた白い狐を目にして、稲荷の大神とその眷属である白狐を篤

く信仰するようになったのではないかと想像されます。

私たちは元号を使用することによって、どの天皇と共にその時代を生きてきたかを実感することができます。昭和天皇は、日本の皇室は昔から国民の信頼によって万世一系を保ってきており、歴代の天皇は国民を我が子と考え、世界の平和と国民の幸福を祈っていることは昔も今も変わってはいないと述べられました。今上天皇は皇室がどのような時にも国民と共にあり、相たずさえてこの国の未来を築いていけるように念じているとお話されました。日本という国は古来より天皇を戴く国であり、皇室と国民は強い信頼関係によって結ばれていて、その絆が切れたときには日本は日本でなくなってしまうと。元号を用いることによって私たちは皇室との結びつきを強く感じられますし、西暦のみの使用ではそれが希薄化してしまいます。日本国に住むあらゆる人々が同じ元号を用いることにより国民統合の象徴としての天皇の下で、一つにまとまることが出来ます。

明治は世の中が明るく治まること、大正は大いに正しいまづりごとが行われること、昭和は人々の心が明るく昭らされ協和していけるように、平成は世界が平和と成るように願ってつけられた元号です。御譲位後、今上陛下は上皇陛下と称されることとなります。新天皇の御即位と新元号の制定を迎える新たな時代におきましても、引き続き美しい日本の国柄と伝統文化の継承、国家国民の発展を祈念します。





# 初午大祭 絵馬祭



## 初午とは

稲荷の大神様と初午の関りは深く、大神様が京都の伏見稲荷大社にご降臨されたのが二月の最初の午の日であったことから、その日をご縁日として全国の稲荷神社では、「初午大祭」がとり行われております。

## 新暦の初午大祭

### 二月二日

## 旧暦の初午大祭・絵馬祭

### 三月十日

## 旧暦の初午大祭・絵馬祭

旧暦の初午大祭に併せて、氏子青年会主催の絵馬祭が行われ、山車や狐の行列、お囃子などが市内を賑やかに練り歩きます。また、境内には各界著名人による自筆の奉納絵馬や、絵馬コンクールに出品された子供たちの奉納絵馬が多数展示されます。

第33回

# 日本の未来を考える

カリフォルニア州弁護士／ケント・ギルバート 氏  
笠間稲荷神社 権宮司／太田 寿男

## 国際化が進む今、 日本がすべきことは

世界でも珍しい  
日本の特徴とは？

太田 笠間稲荷神社にいらっ  
しゃるのは初めてということだ  
すが、参拝されていかがでしたか。  
ケント もう最高ですね。先ほ  
ど境内を歩きましたけれども、  
歴史を感じました。

太田 当社は日本三大稲荷の一  
つとして知られています。社伝  
によれば、創建は今から  
一三六〇余年前の六五一年です。  
大昔には境内に胡桃の木が生い  
茂っており、その大きな胡桃の  
木の根元に稲荷の大神様が祀ら  
れていたことから、胡桃下稲荷  
とも呼ばれています。  
ケント なるほど。今日は胡桃

ではなく、菊の花がいたるところ  
で咲いていて大変きれいでした。

太田 当社では毎年十月中旬か  
ら十一月下旬に菊まつりを開催  
しています。菊まつりは、当社  
の農園部が米や野菜などと一緒  
に菊を栽培するようになったの  
がきっかけで始まりました。初  
回は明治四十一年ですから、  
一一〇年以上の歴史があります。  
今、当社では五〇〇〇鉢の菊を  
展示しております。

ケント 小学生の頃、友だちと  
一緒に家の庭にいろいろな花を  
植えていたんです。その中には  
菊もあって、菊は大好きな花の  
一つです。

太田 気に入っていただけだよ  
うでうれしい限りです。さて、  
先生は日本に長く暮らしてい

笠間稲荷神社 権宮司

太田 寿男





から、そこは正反対です。でも、そのギャップを楽しんでいます。

## 日本は世界中で人気 自国に誇りを持つとう

明を、時間をかけてじっくり作り上げることができた。だから、こうなんというか、細かいところまで決まっている印象があります。

太田 そうですか。具体的にどのようなことがありますか。

ケント たとえば、僕が生まれたアメリカは、大統領を見ればわかるでしょうけれど、一か八かの国で、とにかく何でもやってみます。それに比べると日本は、慎重すぎる気がしますね。石橋を叩いて叩いて物事が決まる前に橋自体が崩れてしまうようなところが見受けられて、アメリカ人の僕としてはイライラする部分もあるんですよ（笑）。

太田 確かに、日本人は慎重かもしれません。

ケント 憲法第9条の議論には特にそれを感じますね。日本の皆さんは、変化を必ずしも良いと思っていない。アメリカ人は変化こそが良いと思っています

ケント 同感です。こちらに来る前にコンビニに立ち寄ったのですが、コンビニの食べ物の廃棄も問題になっていますね。

太田 ええ。当社のご祭神の宇迦之御魂神はさまざまな御神徳をお持ちですが、特に、穀物や

命を育む神さまです。だからこそ、食べ物を粗末にする風潮はいかなものかと心を痛めております。

ケント コンビニの商品の廃棄も、残飯も、神さまに対する侮辱ですよ。キリスト教では、この地球も、地球上の動物、植物、資源のすべても神さまが人間のために与えてくださったものであり、人間はそれを支配する権利と同時に、大事に使う義務も与えられている、と教えます。環境も資源も食べ物も神さまからいただいたものの。大事にしないといけませんね。

太田 ところで、先生は著書や講演などで愛国心を持つことの

## ケント・ギルバート 氏 Kent Gilbert

カリフォルニア州弁護士、タレント、作家  
1952年、アメリカ合衆国アイダホ州に生まれる。ブリガム・ヤング大学大学院で経営学および法学を専攻。大学在学中の1971年にモルモン教の宣教師として初来日。1980年、ブリガム・ヤング大学大学院卒業。法学博士号・経営学修士（MBA）号を取得。法律コンサルタントとして再来日し、1983年より「世界丸ごとHOWマッチ」にレギュラー出演する。以降、タレント活動、法律家、有識者、企業経営者として幅広く活躍。「米国人弁護士だから見抜けた日本国憲法の正体」（角川新書）、「まだGHQの洗脳に縛られている日本人」（PHP文庫）、「日本人だけが知らない世界から尊敬される日本人」「日本人だけが知らない本当は世界でいちばん人気の国・日本」（ともにSB新書）など著書多数。







大切さを説いていらっしゃいます。  
ケント 「ついに『愛国心』のタブーから解き放たれる日本人」(PHP新書)という本も書きました。アメリカでは愛国心を持つということ、キリスト教徒が「聖書は真実である」と考えるのと同じくらい不動の概念なんです。一般的な家庭で育った米国人に「愛国心はありますか?」と聞いたら、間違いなく「はい」と答えるでしょう。日本人は違いますよね。

太田 「はい」と答えるのをためらう空気があると思います。

ケント 日本の歴史や伝統は本当に素晴らしいんだから、もつと自分の国を誇りに思わないと。

太田 世界の国々は日本をどう思っているのでしょうか。

ケント 日本は戦後、各国に多額の賠償金を払いました。その後も、金銭的にも技術的にもさまざまな援助を行ってきました。そうした背景もあって、特に東南アジアの国々は日本に対して非常に良い印象を持っています。茶道、華道、剣道などのいわゆる「道」とつくものは国によっては結構浸透し始めていて、こちらでも高く評価されています。

太田 そうでしたか。

ケント それから娯楽ですね。アニメ、コスプレ、カラオケなんかは世界中に広がっています。ですから、日本のおかげで、世界の人々が心の豊かな生活ができるようになっていきます。世界的に日本は人気者なんです。

## 豊かになった日本 今こそ世界に貢献を

太田 今後ますます国際化が進

む中で、日本は何をすべきだとお考えですか?

ケント 日本はもつと世界に貢献すべきです。日本は豊かになりました。その恩返しを世界にするとときがきたんです。貢献というのは、単にお金を払えばいいということではありません。アメリカに安全保障を頼ったりせず、日本という国が自立して、文化や技術、安全保障といった金銭ではない方法で世界に貢献する。「憲法第9条があるから日本は国際貢献できません」という態度は、この時代には許されませんよ。

太田 これから日本がより発展するためには、憲法について国民全員がもう一度きちんと考えて、しっかりと自立し、諸外国と協力関係を結んでいかないといけない、ということですね。

ケント そう思いますよ。できれば、日本は世界から孤立してしまいません。

太田 ほかに何か日本へのアドバイスはありますか。

ケント そうですね、日本の皆さんは私生活をもう少し大事にするべきだと感じています。戦後の日本は、誰も彼もが私生活を犠牲にして一致団結して働い

てきました。おかげで経済や科学技術が発達したわけですが、今はもつと余裕を持った暮らしをしてもいいのではないのでしょうか。家族と団らんしたり、自分を磨いたりする時間を持つ。これからはそういう心のゆとりが大切だと思います。地域の人々との交流も必要でしょう。

太田 人々の心を豊かにし、住民同士の交流を促す。神社としまして、それはとても重要だと考えておりまして、さまざまな行事を通じて、地域に貢献したいと考えております。

ケント 神社は特に、地域住民の交流を活発にするためのとても重要な役目を担っていると思います。私が暮らしている東京のあるエリアは、都会ですから、町内会の会費は払っていても、行事には参加しないという人が大勢いるんです。でも、近所の神社でお祭りがあれば、みんなが参加して仲良くしています。神社を通しての交流というのはとても大切だと思いますね。

太田 本日は貴重なお話をありがとうございました。





# 「外国人法律家から見た日本国憲法」 ケント・ギルバート先生

## 講演レポート

平成30年11月8日、「第60回 西茨城神社総代会総会」の特別講演として、ケント・ギルバート先生による公演が行われました。その様子をレポートします。

講演はまず、世界と日本の歴史を比較する映像からスタートしました。「多くの国が滅亡と建国を繰り返す中、日本だけが侵略されることも、滅亡することもなく脈々と文化と文明を築き上げてきました」と、先生は日本という国の特異性に言及。それにもかかわらず、日本人が諸国に比べて愛国心が薄く、自虐的な歴史観を持っているのは、戦後、GHQ（連合国軍総司令部）によって行われたWGIPが原因だと先生は指摘します。WGIPは「War Guilt Information Program＝日本人に戦争責任の罪悪感を刷り込む宣伝計画」のこと。「GHQは、日本人が本来持っていた素晴らしい精神性と伝統を徹底的に否定することで、日本人から愛国心を奪いました。その影響は現代にもおよんでいます。憲法改正にむやみに反対する人が多いのも、日本がいまだにWGIPの影響を受けている証拠です」。WGIPについて初めて知った人も多かったようで、参加者は熱心に耳を傾けていました。



今回の講演のテーマである日本国憲法については、そもそも草案がGHQによって作られたものであり、特に憲法第9条第2項はマッカーサーの指示で盛り込まれたことに触れた上で、こう説明されました。「日本国憲法を服にたとえると既製品だと私は思います。つまり、誇れる特徴は何一つないけれども、非常に機能的で使えるんです。ただ、よく見たらこれは訳あり製品といえます」。

その後、法律家としての視点から日本国憲法を詳細に解説され、「日本は大国としての役割を果たすことを期待されています。多くの国々と交友関係にある日本は、自立した国家として自国の国益を守ると同時に世界平和に貢献すべきです。憲法改正はその第一歩となるでしょう」との言葉で、講演を締めくくられました。

日本の歴史から日本国憲法、さらには世界情勢にまでおよんだ今回の講演に参加者は大いに感銘を受けたようです。先生への盛大な拍手とともに、講演は盛況のうちに幕を閉じました。





# 祭事予定

## 一月

### 歳旦祭

新年を祝い皇室の弥栄、国の隆昌、世界の平和を祈るとともに、氏子・崇敬者の方々の安泰を祈る祭典です。  
当社は、県内の神社で最高の人出となります。



一日

歳旦祭

三日

元始祭

五日

鉦始祭

七日

昭和天皇祭遙拝式

十日

初事比羅祭

十四日

尖閣諸島安全祈願祭

十五日

古札炎上祭

二十二日

御本殿畳奉納奉告祭

二十五日

初天神祭

二十七日

初甲子祭

### 鉦始祭

「木造り始め」とも言い、鉦とは手斧のこと、即ち鉦を以て用材を造り始める儀式です。当社では御神札を始め交通安全等お守り類、社殿修復や菊会場作成等に関わる木材に鉦を入れる儀式を行っています。工匠（宮大工）は装束姿で古式豊かに鉦始めを行います。





## 節分追儺式

当社では節分の日、午後三時と午後七時の二回、神事節分追儺式を行います。「節分祭」は冬の節から春の節に移る立春の前夜に行い、悪疫退散・除災招福を祈る神事です。

当社の節分追儺式は拝殿においての祭典終了後、境内の特設撤豆台において神職が古式に則り、桃の弓、芦の矢、桃の杖で追儺式を行います。



# 二月

初二日  
初午大祭

初三日  
節分追儺式

初四日  
旧大祓式

初五日  
旧歳旦祭

初七日  
北方領土返還祈願祭

初八日  
針供養祭

初十一日  
紀元祭

初十四日  
祈年祭・初穂講大祭

# 三月

初十日  
旧初午大祭

初十日  
絵馬祭・絵馬炎上祭

初二十一日  
春季皇霊祭遙拜式



## 祈年祭・初穂講大祭

春を迎え、穀物の豊作を祈るとともに国家の安泰を祈願するお祭りです。祈年祭は、「としごいのまつり」とも言い、「とし」は穀物のことを表しますので、穀物の豊作を祈る祭ということです。

当社では二月十四日に、この祈年祭にあわせて、秋の新嘗祭に豊作を感謝し、稲荷の大神様に奉納する初穂（その年に収穫した穀物）をとりまとめる初穂講の世話人を招いて、豊作を祈る初穂講大祭を行います。



## 御田植祭

毎年五月十日、当社の稲荷神社御神饌田において古式ゆかしく御田植祭を斎行します。

御田植祭はその年の豊穰を祈願するとともに、稲荷の大神様に毎日御供えする御米（みけ）を栽培する稲苗の植付けの神事であり、この祭典は当社にとりまして、由緒ある重儀として厳修しています。



## 四月

三日 神武天皇祭遙拝式

九日 例大祭

二十九日 昭和祭

## 五月

十日 御田植祭

十三～十五日 本宮祭

## 六月

二十三日 車の茅の輪くぐり

三十日 夏越の大祓

茅の輪くぐり



### 車の茅の輪くぐり

当社では、六月晦日に斎行します夏越の大祓式の一環として、「車の茅の輪くぐり」を行っております。これは、半年間に知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを茅の輪をくぐることによって祓い清める神事です。「車の茅の輪くぐり」は車社会の進展による交通安全の意識高揚を目的としております。



# 笠間稲荷神社 ご案内

## 奉納者芳名

「社名大提灯一對」  
「弓張提灯一對」

下野小山須賀講

講元 町田 充宏様



御簾、胡床、装束、几帳  
等多種受け付けております。

## ◎奉納募集

当社では威儀物や祭典に  
用いられる祭具のご奉納を  
お受け致しております。

ご奉納頂ける方は笠間稲  
荷神社社務所までご相談く  
ださい。ご奉納頂いた方の芳  
名は末永く顕彰させて頂き  
ます。また、これまでにご奉  
納頂きましたご崇敬者の皆  
様に厚く御礼申し上げます。

## 祈禱案内 厄除

古くから人々は、特に気をつけなければならな  
い年回りを「厄年（やくどし）」と呼んできました。  
一般的に男性は数え二十五歳、四十二歳。女性  
は数え十九歳、三十三歳、三十七歳が「厄年」にあ  
たります。中でも男性の四十二歳、女性の三十三  
歳は万事を慎むべき「大厄（たいやく）」とされま  
す。この年齢は現代でも人生の大きな転機を迎え  
る年回りで、神社でお祓いを受け、神々の御加護  
で無事に過ごせるように祈りましょう。

（初穂料五〇〇〇円より）

## 平成31年度 厄除表

|          |        | 前厄     | 本厄     | 後厄     |      |
|----------|--------|--------|--------|--------|------|
| 男        | 25歳の厄年 | 平成8年生  | 平成7年生  | 平成6年生  |      |
|          | 42歳の厄年 | 昭和54年生 | 昭和53年生 | 昭和52年生 |      |
| 女        | 19歳の厄年 | 平成14年生 | 平成13年生 | 平成12年生 |      |
|          | 33歳の厄年 | 昭和63年生 | 昭和62年生 | 昭和61年生 |      |
|          | 37歳の厄年 | 昭和59年生 | 昭和58年生 | 昭和57年生 |      |
| 還暦       |        | 昭和35年生 |        |        | 男女共通 |
| 13詣り     |        | 平成19年生 |        |        |      |
| 幼児の厄(4歳) |        | 平成28年生 |        |        |      |

当社ホームページからもご祈禱のご予約が頂け  
ます。

◎ホームページ <http://www.kasama.or.jp/>

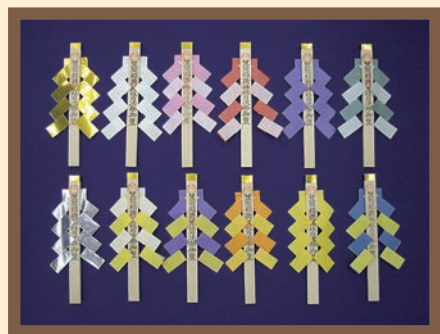
笠間稲荷神社

検索

## 月詣り

当社には「月詣り」を  
される崇敬篤い方が大勢  
いらつしやいます。

月詣りとは、月毎に大  
神様の御加護をお受けに  
なり、前月よりの平穏無  
事を感じ、新たな御神  
徳を頂くことでありま  
す。月詣りの方には神苑  
に咲く花を表した御幣を  
授与しております。どの  
月からでも始めて頂けま  
すので、ご希望の方は受  
付までお申し出下さい。



# 笠間稻荷神社日誌



平成三十年

赤字：祭典  
青字：結婚式  
黒字：講中参拝・正式参拝  
緑字：行事

## ◆七月

- 七日 志波姫神社外八社総代一同  
宮司 工藤順司様
- 八日 初雁工業株式会社笠間稻荷講  
水神講
- 十五日 茨城県神社庁西茨城支部総会
- 二十日 笠間稻荷神社敬神婦人会総会
- 二十一日 笠間稻荷神社敬神婦人会会長 檜山公江様
- 二十二日 伊豫稻荷神社大総代 松田隆和様  
星野由紀子様
- 二十四日 笠間発見シアーズ 台湾メディア  
代表 陳志光様  
干模珉様  
游慧君様
- 三十一日 甲子祭

## ◆八月

- 一日 本社御田植祭  
事比羅祭・末社祭
- 四日 國學院大學指定実習（十日まで）  
國學院大學  
神道研修事務部長 大野靖仁様

## ◆九月

- 五日 献燈祭  
提灯奉納奉告祭  
（奉納者 町田充宏様）
- 九日 当社責任役員会・総代会  
旧大祓式
- 十日 宇都宮笠間講
- 十八日 真岡加波山登山講
- 二十六日 大洗磯前神社権禰宜 吉田卓史様  
國學院大學指定実習生
- 一日 五丁目友の会
- 五日 足柄下郡氏子総代会  
五所神社宮司 西山敦様  
兒子神社総代 青木功様
- 六日 藤沢五所神社連合会会長 塚越豊晴様
- 八日 結婚式 永井家・中村家  
結婚式 多胡家・猪瀬家
- 十日 埼玉丸元講
- 十八日 黒磯神社大世話人会会長 平山信安様  
宮司 月江寛智様
- 二十三日 秋季皇霊祭遙拝式  
小笠原流弓馬術礼法奉納
- 二十四日 中秋祭



## ◆十月

- 二十六日 神明神社総代会  
宮司 松本秀勝様  
会長 飯岡甚様
- 二十九日 甲子祭
- 四日 国際ロータリー第二八二〇地区  
ガバナー 高橋賢吾様
- 五日 境町塚崎いきいき寿学会会長 羽部吉造様
- 九日 神宮大麻頒布始奉告祭
- 十日 無門会 善門寺住職 小澤秀瑛様  
生田神社名誉宮司 加藤隆久様
- 十四日 辻ヶ岡笠間稻荷神社奉賛会
- 十七日 神嘗奉祝祭
- 二十日 菊まつり開催奉告祭
- 二十一日 笠間の菊まつり開場式
- 二十二日 假屋崎省吾の世界展（十一月一日まで）
- 二十三日 本宮祭
- 二十五日 本宮祭
- 二十六日 尚齒祭
- 茨城県敬神婦人連合会大会  
茨城県敬神婦人連合会会長 檜山公江様  
参議院議員 有村治子様





二十七日 相馬地域神社総代会会長 寺内安規様  
二十八日 笠間稲荷神社東京中央講

## ◆十一月

一日 笠間友部街商組合  
明治祭・神事流鏝馬

下前笠間稲荷神社講  
松伏地区笠間講

南百笠間講

五辻笠間講・増森新田講

東京東両国八町睦笠間勇山講

四日 「私の好きな笠間」図画コンクール表彰式

番匠免講・寄居笠間講

瑞穂観光サービズ東部案内所

越谷穀信講

東京国立講

明治神宮崇敬会川崎宮前支部

支部長 谷沢博孝様

西茨城支部神社総代会

西茨城郡神社総代会会長 徳藏常松様

美野里菊盆栽会会長 井坂徳男様

安行笠間講

笠間示現流奉納

自由民主党柏支部沼南地区

沼南地区長柏市議会議員 石井昭一様

大和古流奉納

匝瑳立身太々講



十五日 霜月祭

岩井職工組合

十七日

笠間落語会  
結婚式 堀内家・萩原家

小松稲荷講

立野神社宮司 戸澤務様

立野神社氏子総代会会長 大久保正様

立野神社護持会会長 藤田佳文様

十八日

舞楽祭  
川口平和講・船橋大日講

二十一日

塩原温泉笠間講

二十二日

三峯山奥之宮神璽講社  
埼玉県酒造組合中部ブロック

新嘗祭・献穀献繭祭  
浦向笠間稲荷講・尾崎稲荷講

二十三日

エチオピア連邦民主共和国大使館  
駐日全権大使チャム・ウガラ・ウリヤトウ様

二十四日

笠間の菊まつり千秋楽

二十五日

甲子祭  
当社責任役員会・総代会

二十九日

明治神宮権宮司 九條道成様

三十日

一日

有限会社山崎石材店

九日

茨城県菊花連盟菊花品評会表彰式

十二日

ゼリア新薬工業株式会社  
口サラーンド株式会社

## ◆十二月

有限会社伊部

十五日

結婚式 加藤家・三又家

十六日

結婚式 藤田家・小林家

二十二日

御火焚串炎上祭

二十三日

天長祭

二十五日

サンコー株式会社

二十八日

鹿島祓

三十一日

大祓式

### エチオピア連邦民主共和国 駐日全権大使来社

十一月二十四日、エチ

オピア連邦民主共和国

大使館チャム・ウガラ・

ウリヤトウ駐日全権大

使が来社されました。

大使はご家族で来社

され、正式参拝後、菊

人形展・大菊花展を

ご観覧されました。笠

間市とエチオピアとは

前々より交流が進めら

れており、このご訪問

を通じ、より深い交流

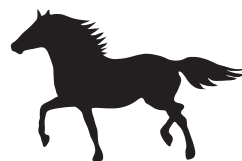
ができることを心より

お祈り申し上げます。





# 笠間稲荷神社と「うま」



## 神馬と絵馬

参道を進み、拝殿へと至る楼門をくぐると、左右に二頭の神馬の像があります。馬は神様の乗りものとして崇められ、天へ昇って神様へ願いを届ける使いでありました。楼門の神馬は片方が白、もう一方が黒色をしています。実はこれにも意味があります。白馬は白雲を象徴し晴天を願い、黒馬は黒雲を象徴し、雨を願って神様に捧げられました。元々は生きた馬を捧げていましたが、後に木や土でできた馬の像を納めるようになり、それが簡略化して、板に馬の絵を描いたものを願い事とともに神社に納めるようになったとされています。

今や絵馬は神社や願い事によって形も様々で、犬やうさぎなど動物をかたどったものもあり、当社にも自分で顔を描けるきつね顔の絵馬や、十二支の動物が描かれた干支絵馬があります。絵馬が生まれなかったら、神社は馬だらけで大変だったに違いありません。伊勢神宮など、今でも現役の神馬が活躍しているところもあります。神社に厩舎（うまや）があることが多いのも、このなごりです。

## 流鏝馬神事

当社の流鏝馬神事は、小笠原流の古儀古術で、鶴岡八幡宮・日光東照宮と並び、関東三大流鏝馬神事の一つとされています。農業の豊凶を占う儀式として昭和二十五年十一月三日「文化の日」に初めて開催され、以後十一月三日を恒例日として行われております。

当日は鎌倉時代の流鏝馬装束を身に付けた弓馬術礼法宗家小笠原流一門の射手をはじめ、氏子総代、古武道振興会の方々等、総勢四十余名が当社の拝殿前で流鏝馬神事が滞りなく執り行われるよう祈願した後、笠間小学校前の特設馬場までの道のりを古式に則り参進します。

約二百メートルの馬場の間で、三カ所に設けられた高さ二メートルの的を射手が馬を走らせながら約二十秒間の間に三本の鏝矢（かきや）を射ます。日記役がその命中率を記録し、当社宮司がその結果から、来年の豊凶を占います。





# 笠間稲荷神社 神前結婚式

生命の根源を掌る宇迦之御魂神の下、  
笠間稲荷神社で迎える新たな門出。

うかのみたまのかみ



初穂料

亀式 5万円  
鶴式 10万円



<お問い合わせ>



笠間稲荷神社

TEL▶0296-73-0001 e-mail▶[info@kasama.or.jp](mailto:info@kasama.or.jp)

【お電話の受付時間】午前9時～午後4時

結婚式のお申し込み・式場のご見学・ご相談等でご来社の際は、前日までにご連絡下さい。





# 神社の いろは

**Q** 幼稚園や小学校に通う子どもに持たせるお守りには、どのようなものがありますか？

**A** お子さまの健康や安全を祈願いたしました「こどもまもり」や学業成就の祈りを込めました「学業御守」はいかがでしょうか。

どちらも水色とピンク色の二色があり、こどもまもりは通園・通学の鞆などに付けやすい紐の長さ、学業御守はお子さまの手にも持ちやすい大きさになっております。



こどもまもり  
(800円)



学業御守  
(500円)



合格御守  
(500円)



絵馬  
(500円)



必勝御守  
(500円)

**Q** 入学試験や資格試験の前にはどんな御祈願をする  
と良いでしょうか？

**A** 高校、大学入試をはじめ各種資格試験前には「合格祈願」の御祈禱をおすすめいたします。また、絵馬に願いを込められる方や、合格御守や必勝御守を身につけられる方も多くいらっしゃいます。

当社の末社には学問の神様・菅原道真公をお祀りしている菅原神社が鎮座しており、毎年一月二十五日は初天神祭が斎行されますので、学業成就・試験合格をどうぞ祈念下さい。

その他、ご質問等ございましたらお問い合わせ下さい。  
笠間稲荷神社社務所 ☎0296(73)0001



笠間稲荷神社

社報「胡桃」No.43 平成30年12月発行  
発行所／笠間稲荷神社社報編集委員会 茨城県笠間市笠間1番地  
電話0296(73)0001代 FAX0296(73)0002 テレホンサービス0296(73)0003  
ホームページ <http://www.kasama.or.jp/> Eメール [info@kasama.or.jp](mailto:info@kasama.or.jp)  
編集発行人／塙 東男 本誌の写真、イラストレーション、記事の無断転載を禁じます。

ホームページ

